



きじむんの

とろ〜ちゅいむにい〜 文庫紹介編

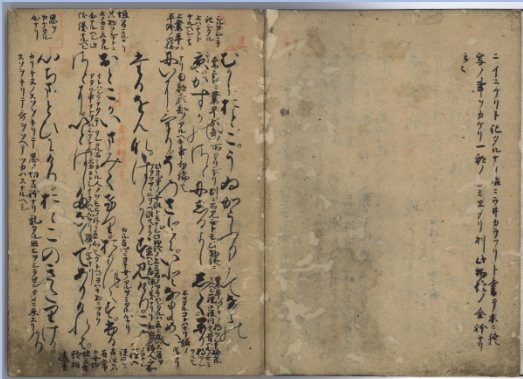
第10回 しまぶくろげんしち 島袋源七文庫

キーワード：折口信夫 『山原の土俗』 『浦添家本伊勢物語』 風水

いいそ〜ぐわちで〜びる！ きじむんやいび〜ん。皆さん、今年もどうぞよろしくおねがいます。今月は、山原の民俗学者島袋源七について紹介するよ。

・島袋源七（1897. 6 - 1953. 1）略歴

島袋は 1897(明治 30)年 7 月、今の今帰仁村勢理客に生まれました。1917(大正 6)年 3 月に沖縄県立師範学校を卒業し、同年 4 月からおよそ 10 年間にわたり、北玉、辺野喜、喜如嘉、稲嶺の各小学校にて教員を勤めました。1927(昭和 2)年に上京して杜松小学校に勤務する傍ら、立正大学高等師範部地理歴史科に在学し、1931(昭和 6)年に卒業しました。その後は 1934(昭和 9)年に立正中学教諭となり、1947(昭和 22)年には高等学校教諭を兼任しました。1953(昭和 28)年 1 月 15 日に気管支喘息による心臓麻痺のため、57 歳で死去しました。



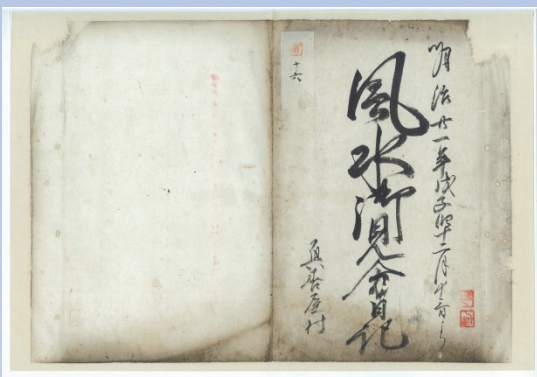
『浦添家本伊勢物語』より
「初冠（ういかうふり）」

・折口信夫との出会い：民俗学者へ

1921(大正 10)年、折口信夫が民俗調査で沖縄を訪れた際、島袋は国頭地方の案内をしました。それを機に、教師として働きながら民俗学者としての道をも歩むことになりました。島袋の代表的な著作物としては爐邊(ろへん)叢書(そうしょ)の一冊として刊行された『山原の土俗』（郷土研究社 1929年）が挙げられます。これは沖縄本島北部の年中祭祀や民間信仰が初めて本格的に記録された著作で、その後の民俗祭祀研究の範型となりました。

・島袋源七文庫について

源七の死後、旧蔵資料の一部 115 冊が昭和 32(1957)年に附属図書館におさめられました。本文庫は、民俗学関係の資料、とくに山原(沖縄本島北部)地域の資料を主体としています。代表的な資料としては、風水師による 19 世紀の風水検分の記録群『風水御見分日記』等があります。19 世紀の沖縄の風水関係の資料がまとまっているのは大変貴重です。また、『浦添家本 伊勢物語』は、琉球に伝来した写本の一つです。この本が、1711 年に首里王府が編纂した『混効験集』という当時の古語辞典の典拠資料の一つとなったことがわかっています。『浦添家本伊勢物語』は昭和 49(1974)年 10 月沖縄県指定有形文化財に指定されました。



『風水御見分日記』

文庫の資料画像は「琉球・沖縄関係貴重資料デジタルアーカイブ」にて閲覧できます。右の QR コードから是非チェックしてみてくださいね！（CT）



参考文献：東恩納寛惇「島袋源七君を哀しむ」（『おきなわ』,No.4(3)(通号 27),1953 年）、加藤正春「折口信夫と島袋源七の国頭村の旅：シヌグとの関連で」（『民俗文化研究』,No.11,2011 年）、島村幸一「“島袋源七”研究 ―ある「沖縄学」研究者の足跡―」（『立正大学大学院紀要』,No.30,2014 年）